



# 校長室だより

第 2 3 号  
(通算第 7 6 号)  
令和4年9月9日(金)  
大崎市立沼部小学校  
校長 吉田 浩之

## 明日は中秋の名月

早いもので、9月も中旬を迎えようとしています。

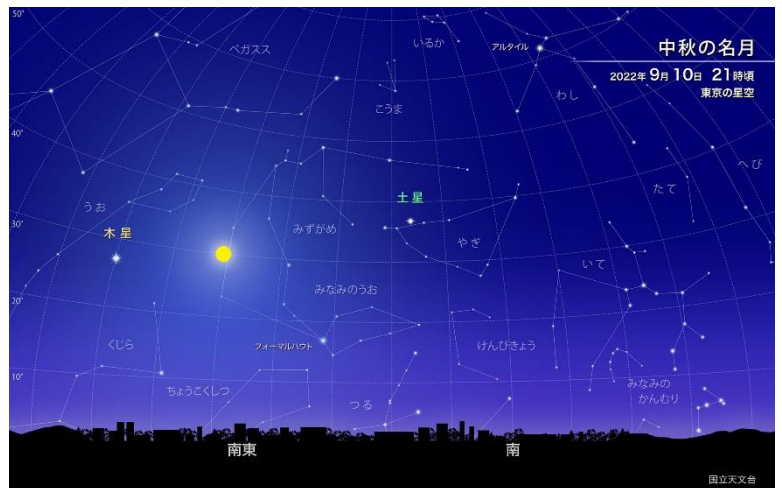
明日は中秋の名月です。国立天文台のサイトには次のように記載されています。

「中秋の名月」とは、太陰太陽暦の8月15日の夜に見える月のことを指します。中秋の名月をめぐる習慣は、平安時代に中国から伝わったと言われています。日本では中秋の名月は農業の行事と結びつき、「芋名月」と呼ばれることもあります。今年の中秋の名月は満月と同じ日ですが、実は、中秋の名月と満月の日付がずれることは、しばしば起こります(例えば、2024年は、中秋の名月が9月17日、満月が9月18日と日付がずれます)。これは以下の理由のためです。

- 中秋の名月は太陰太陽暦の日付(新月からの日数)で決まるが、満月は、太陽、地球、月の位置関係で決まる。
- 月の公転軌道が楕円形であり、新月から満月までにかかる日数が13.9日から15.6日と大きく変化する。

また、太陰太陽暦の9月13日の夜を「十三夜」と呼び、日本ではその夜にもお月見をする習慣があります。十三夜は、「後(のち)の月」「豆名月」「栗名月」とも呼ばれます。今年の子十三夜は、10月8日です。

(ここでいう太陰太陽暦とは、明治5年まで日本で使われていた暦で、月の満ち欠けを元に日付が決められていたそうです。)



中秋とは、「秋の真ん中の日」という意味です。旧暦で、1~3月を春、4~6月を夏、7~9月を秋、10~12月を冬としていました。8月15日は秋の3カ月間の中で、ちょうど真ん中の日にあたります。外国では9月の満月のことをハーベストムーンと呼ばれているそうです。ハーベストとは収穫という意味です。

このころの季節の言葉は「白露」です。大気が冷えてきて露を結ぶ頃のことです。ようやく残暑が引いていき、本格的に秋の訪れを感じるようになる季節です。大分涼しくなってきたかなと感じられますね。

そういえば、ここしばらく満月を見ていないなと思いました。7月の満月は14日、8月は12日でしたが、どちらも天気あまり良くなかったのだと思います。明日の天気予報は晴れのち曇り、ススキと一緒に、中秋の名月を楽しむことができればいいですね。

日本人ですもの、季節感を大切にしたいなと思い、中秋の名月の紹介でした。